

国立研究開発法人森林研究・整備機構の令和5事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	農林水産大臣による令和5年度の総合評価が「A」評価であり、中期計画に対して業務が順調に進捗していると判断されたこと等を踏まえ、評価結果による特段の人事は行わなかった。
----------	---

2. 役員報酬への反映について

役員報酬への反映	農林水産大臣による令和5年度の総合評価が「A」評価であり、中期計画に対して業務が順調に進捗していると判断されたこと等を踏まえ、役員報酬の増減は行わなかった。
----------	--

3. 法人の運営、予算への反映について

大項目	令和5年度における主な指摘事項	令和6及び7年度の運営、予算への反映状況
<p>研究開発の成果の最大化 その他の業務の質の向上 に関する事項</p>	<p>(研究開発業務(全体)) 将来のイノベーションにつながる技術シーズの創出を目指すために重要な基礎研究についても中長期的な視点で着実に推進することが求められている。世界的な喫緊の課題である気候変動対策、生物多様性の保全、それらへの対応と成果の達成、SDGsの対応については、再生可能な生物資源の適切な管理と利用が必要となっている。困難な課題だがイノベティブな技術開発によって我が国</p>	<p>研究開発力強化のため、令和6年4月より社会実装推進・知財戦略室を設けるとともに、令和7年3月には「森林産業実用化カタログ2025」を作成し、研究成果の社会実装や産学官民との連携強化の取組を行った。また、リサーチアドミニストレーション機能の高度化によって研究開発力強化を図るため、研究企画科に人材を配置した。今後も関連する人材確保と育成に取り組んでいく。 研究施設の整備については、低コスト再造林や花粉発生源対策のための苗木や品種等の開発のために環境調節が可能な</p>

	<p>の成長を継続していくことが求められているので、森林研究・整備機構においても研究開発力強化のための優秀な人材や最新設備を確保することが非常に重要である。</p>	<p>温室等の原種増産施設や苗木保存のための冷蔵保存庫の整備を行った（いずれも林木育種センター、関西育種場、九州育種場）。</p>
--	--	---